

テレビ静岡では番組の適正化を諮るための審議機関「番組審議会」を設けています。

このページでは番組審議会の議事の概要をお知らせしています。現在、テレビ静岡では県内在住の8名の方に審議委員をお願いしており、毎月1回（2月、8月は休会）番組について、ご意見を伺い、今後の番組制作の参考にさせていただいています。

テレビ静岡 2020年7月度 番組審議会概要

2020年7月9日（木）

14時00分～

テレビ静岡本社 4階 会議室

— 出席委員 —

高木 正和(委員長) 戸崎 文葉(副委員長) 石田 美枝子
木村 精治 上柳 正仁 飯野 勝己 東松 充憲 飯塚 潤

— 議 題 —

番組名 「消えた”駿河湾の宝石” —明日へつむぐ船—」

放送日時 2020年5月30日（土） 13時30分～14時25分

制作著作 テレビ静岡

— 番組内容 —

日本で唯一、静岡の駿河湾だけで水揚げされ、その美しさから“駿河湾の宝石”と呼ばれる「サクラエビ」。しかしここ数年、姿をあまり見る事ができない。記録的な不漁・・・“宝石”はどこへ消えてしまったのだろうか。

先が見通せない中、日々葛藤する漁師と加工業者に半年間密着。代々受け継がれてきた漁を後世に伝えなくてはならない使命を持った男たちの思いに迫った。そして専門家が示す不漁の本当の原因とは？

日本の漁業の未来を暗示するかのような、サクラエビ漁の混迷。地域の漁業を守るため、いま何が求められているのか、小さな港町を舞台に描き出す。

— 審議概要 —

- ◎多くの関係者を取材し、丁寧に追いかけていた。漁師や加工業者の苦悩する姿や率直な声をきちんと映し出した、良いヒューマンドキュメンタリーだった。
- ◎サクラエビ漁師の多くが兼業をして生計を立てていること、漁獲高を調整したり、プール制にして収入を均等にすることで乱獲を防いでいることなど、サクラエビ漁の背景や歴史、理由までよくわかった。
- ◎駿河湾の空撮や漁に出る船、由比の街並みや生活の風景など、美しい映像が散りばめられていて印象に残った。
- ◎取材対象者を通じて、それぞれ若者や子供たちという「次の世代」に何ができるかを問題提起していた。持続可能な社会をどう作っていくかは私たちすべての課題だと感じた。
- ◎もはや漁業関係者だけの問題ではなく、簡単に結論が出るテーマではないが、私たちにできることを提言するなど、将来の展望や希望を持てる要素が欲しかった。
- ◎視聴者はテレビ番組にどうしても最後に何らかの希望を感じられる「ハッピーエンド的な」結末を期待しがちだが、この番組は「困ったまま」終わってしまっている。希望が見えないなら見えないことを伝えるのもドキュメンタリーで、そういう意味でリアリティーを感じた。
- ◎漁業関係者や行政・学識者など幅広く取材していたが、市民や消費者側の視点・意見が少なかったと感じた。
- ◎不漁の原因とされることについて、もう一歩踏み込んで取材したり検証してもよかったのではないか。やや消化不良な感じを受けた。
- ◎取材対象者の姿や内面を追うドキュメンタリー、事実や社会問題を伝える報道番組という2つの要素の匙加減、バランスの取り方が難しかったと思う。視聴者によって視点も違い、受け止め方も様々なので、委員の中でも評価が分かれているのだと思う。

以上、制作部門にフィードバックし、今後の番組作りの参考とさせていただきます。

次回の番組審議会は2020年9月10日（木）の予定です。